

# 街頭で 平和訴え500回

■高知

「武力で平和をつくれぬ」「全ての武器を楽器にしよう」と街頭で訴える「ピースアクション」の通算500

0回を迎える記念集会在24日、高知市で開かれました。平和資料館「草の家」など4団体が主催。7組が歌やスピーチで平和を訴え、街頭で「戦争法廃止の

2000万署名」を呼びかけました。イラク戦争がはじまる前日、2003年の3月19日に「無法な戦争に反対」と街頭で訴えたのが最初でした。

当時は1日に数回宣伝し、現在は月2回行っています。草の家の岡村正弘館長(78)は「安倍政権は、再び自衛隊が戦争に参加できる戦争法を強行しました。武力で平和はつけれない、話し合いで解決できる世の中、武力のない世の中

を求めましよう」とあいさつしました。「自分で決め書きま

した」と初めて署名した高校生は「戦争が入るとでなくなると感と訴えました。

じるようになった。もう起きてほしくない」と訴えました。

と選挙での投票率アップを掲げています。宇都宮城址公園から約4キロをパレードしてアヒール。日光市の七田千紗さん(16)は「未来は僕らの手の中に」

「民主主義ってなんだ」と話しました。3年の岡田ちふみさん(17)は「安保法制の危険性を伝え、自分で法律の危険性を判断できる若者の輪を地域でも」と話しました。

# 若者中心 県内初めて

■宇都宮

宇都宮市で24日、安保法制(戦争法)の廃止

を呼びかける青年パレードが行われました。同法の廃止を求める若者中心の栃木県内の行

動は初めて。主催は10代若者有志が結成した「D3(正当な民主主義の支持者)Defenders of Democracy」。戦争法の廃止

を求めましよう」とあいさつしました。「自分で決め書きま

# 花を楽器を歌声を

戦争法廃止 行動多様に

# 道行く人に手渡して

■川崎

戦争法に反対する川崎市民の有志をつくる「小杉から平和をつなぐ会(ノスカワ)」は23日、JR武蔵小杉駅周辺(同市中原区)で初めてのフラワードेमを行い、約100人が参加しました。子どもから高齢者まで多彩な年齢の参加者は、ドラムとトランペットの演奏の中、「平和を守ろう」「戦争は知らない」「エコール、歌を歌いながら、沿道を歩く人に花と平和を願うメッセージカードを手渡しました。歩道橋から手を振る人や「頑張って」と声をかける人、カンパを手渡す人など、さまざま

まな反応が寄せられました。2人の子と一緒の花を受け取った女性(37)は「パレードは都会だけでやるものだと思っていた。この街でもパレードがあることに驚いた」と話しました。同会の長谷川三千代さん(54)は「多くの人に参加してくれてよかった。沿道から温かい反応があっただけよかった。これからも平和へのメッセージを発信して、街の人たちに広げていきたい」と語りました。

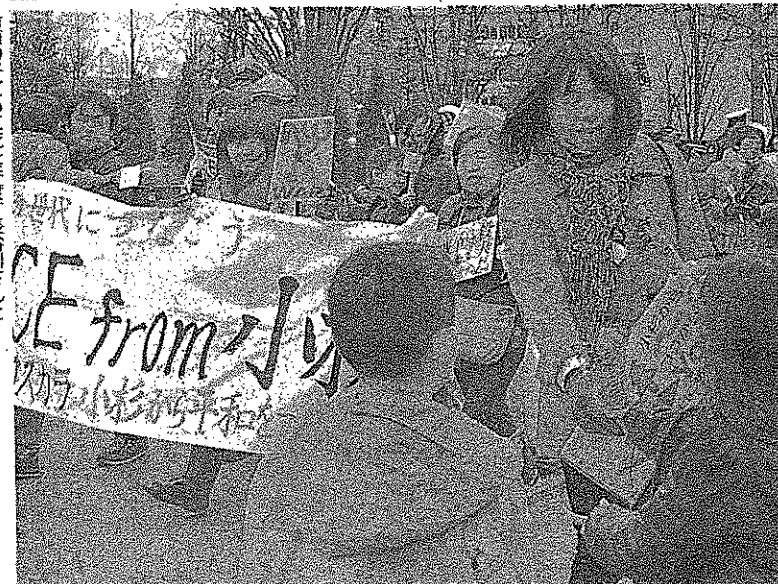
パレードには、日本共産党の椎葉かずゆき参院比例候補、あさか由香参院神奈川選挙区候補、君嶋ちか子県議が参加しました。



歌で全ての武器を楽器にしよう」と訴えるメンバー24日、高知市



戦争法の廃止を呼びかける青年24日、宇都宮市



沿道の子どもに花を手渡す長谷川さんとパレード参加者23日、川崎市中原区内